

TOKYO, VOL. 25 ～マルチランゲージプロダクション(MLP)がお届けする～

# MLP Japan ニュース



栃木県日光市霧降高原

## ごあいさつ

### 暑い夏のあとの慰め

今年の夏は例年に比べて特に暑く、まさに災害レベルの酷暑でした。東京では9月に35.1℃を記録し、観測史上2番目の高さとなりました。

いつも喜んでいることは簡単ではありません。度重なる自然災害や身近な方の病や死など、悲しいニュースが届くことがあるからです。しかし、神はみことばを通して常に私たちに慰め、カづけてくださいます。たとえこの世がつらく感じられても、すべての人に、イエスの十字架の死によって、天国という希望に満ちた約束が差し出されています。

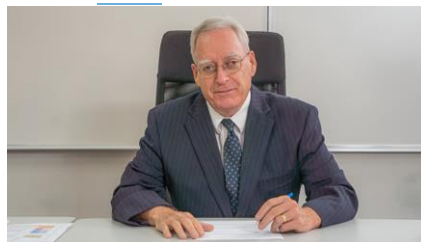
MLP Japan 編集長  
江川かをり

## ご報告

### 追悼文

アジア One チームのリーダーであり、6月30日のアメリカ・ウイスコンシン州の火災で天に召されたスティーブン・ウィッティ博士(66)のご遺族による投稿文を LECC ホームページでご紹介しています。

ウィッティ博士は、2009年から2021年まで、香港アジア・ルーテル神学校の学長を務めました。詳しくは[リンク](#)をご参照ください。

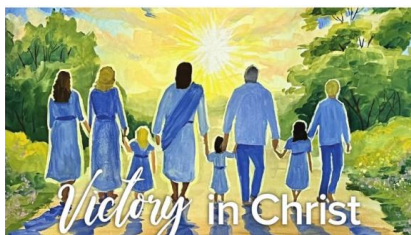


## 伝道とイベント

### 9月の活動

9月8日(日)、江川が夫婦で LECC ルーテル教会(宇都宮市)の礼拝に出席しました。昨年幼児洗礼を受け、私たちの洗礼娘となった赤上祈翠ちゃん(1歳8ヶ月)とそのご家族をはじめ、教会員の皆さんと楽しい交流ができたことに、感謝しています。

また9月13日(日)はジョイクラブのメンバー家族と葛飾区亀有にある、こども図書館ミツカへの遠足を行いました。絵本を子どもたちが体全体を使って楽しく体験できるユニークな施設で、良い経験ができました。



## 今月のみことば

恐れるな。〔…〕わたしはあなたを強め、あなたを助け、  
わたしの義の右の手で、あなたを守る。

イザヤ書 41 章 10 節

発行人：MLP JAPAN 編集長 江川かをり <https://wels.net/>

〒203-0053 東久留米市本町 1-3-39 TEL: 042-472-3454

SUPPORTed by Star Cross, a Japanese Translation & Writing Company

## WELS からのメッセージ

## 継続教育の重要性

牧師や教師にとって、継続教育は欠かせないものです。ミネソタ州のマルティン・ルター大学（MLC）やウィスコンシン・ルーテル神学校（WLS）は、彼らがスキルを磨き、変化する奉仕に適應できるよう支援しています。たとえば、デビッド・プッツ牧師は牧会を続けながら4つの神学修士号を取得し、ベン・クラッツ牧師はチャプレン認定プログラムを修了して地域社会での奉仕の幅を広げました。また、教育分野では、ブライアン・ハック氏とアン・ツァイトラー氏が MLC の大学院プログラムでリーダーシップや特殊教育の修士号を取得し、生徒への指導力を強化しています。



David Putz

ツァイトラー氏は、「**私たちが学び続けることは、生徒や教会の人たちに大きな恩恵をもたらします**」と述べ、自身が成長したことで他の教師とも知識を共有し、教会全体の成長に貢献できていると言っています。また、クラッツ氏も「知識とスキルが向上することで、会衆の人々も信仰生活の模範をより身近に感じられるようになります」と語っています。WLS の継続教育機関である Grow in Grace のディレクター、ブラッドリー・ウォーデル牧師も、「**私たちは学生たちに『常に成長する姿勢』を身につけてほしいと考えています**」と強調しています。※

継続教育は、教会や家族の支えによって成り立っています。プッツ氏は妻の協力と教会からの経済的支援に感謝し、クラッツ氏もまた、教会の寛大なサポートが学び続ける上で大きな助けになったと述べています。「私たち教師が成長すれば、教会全体が成長します」とツァイトラー氏は語ります。一人の成長が他の人々の成長を促し、それが教会全体の成長へと繋がるのです。「**キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。**」（エペソ 4:16）。

ジェームズ・ポープ | Forward in Christ 誌 編集長

【上記は、WELS 公式月刊誌 *Forward In Christ* (FIC) 2024 年 8 月号より翻訳/要約されています。】

※ウォーデル牧師は 2015 年まで日本で宣教師として奉仕し、MLP Asia のコーディネーターを務めていました。また、香港アジアルーテル神学校では翻訳コースを指導し、現 MLP Japan 編集長の江川もそのコースに参加しました。江川は、2017 年に同校で「Translation and Theology (神学翻訳学)」の学位を取得できたことを神に感謝しています。

## 江川かをりの讚美歌トピックス

## ヘンデルの『メサイア』を味わい楽しむ

皆さんは「Sing-in (シングイン)」という形式のコンサートをご存じですか？観客がコンサート中に一緒に歌うことができる形式です。私は 9 月に初めて、ヘンデルの『メサイア』のシングインコンサートに参加しました。



9 月 21 日、公演は葛飾区のシンフォニーヒルズで行われました。独唱や楽器演奏の美しさは格別で、さらに合唱の部分では、観客が自前の楽譜を持って立ち上がり、壇上の歌手やオーケストラと共に響き渡る歌声が迫力満点でした。『メサイア』は 3 部構成の長い楽曲ですが、夢中で聴いたり歌ったりしているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまいました。アンコールでは「ハレルヤコーラス」が再奏され、観客参加型の音楽祭として大いに盛り上がりを見せました。

ヘンデルは、マルティン・ルターの宗教改革（1517 年）から数百年後にドイツで生まれ、イギリスに移住してもルター派の信仰を保ち続けました。当時のルター派の重要な伝統のひとつとして、ルターが聖書をドイツ語に翻訳し、新しい賛美歌を作ったことにより、母国語での会衆賛美が広まっていたことが挙げられます。有名な賛美歌の一つに「神はわがやぐら (Ein feste Burg ist unser Gott)」があり、後にヨハン・セバスチャン・バッハもこの伝統を受け継ぎ、「主よ、人の望みの喜びよ (Jesu, meine Freude)」などを作曲し、今日まで歌い継がれています。このシングインコンサートは礼拝ではありませんでしたが、神の言葉を共に歌う文化を思い起こし、その価値を再確認する特別な機会となりました。

その際、『メサイア』の解説書をコンサート会場に持参しました。こちらの **Messiah-The Greatest Sermon Ever Sung** の翻訳書は 2017 年に発行され、現在、[LECC ホームページ](#)で無料で読むことができます。また、[こちらの YouTube 動画](#)では、歌詞/聖書箇所が表示付きで視聴することができます。多くの方がキリストの救いのメッセージを、美しい音楽とともに喜び楽しむことができますように。

